



News Release

2025年10月30日
NITE (ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

ストーブとの程よい距離感が大切です ～「電気」「石油」暖房器具の事故を防ぐ 4+1 のポイント～

1. 事故の発生状況

NITEに通知のあった製品事故情報※¹のうち、2020年から2024年までの5年間に発生した暖房器具の事故は、北海道で合計47件ありました。

(1) 事故の被害状況

暖房器具の被害状況別の製品事故発生件数を表1に示します。

表1 被害状況別の事故発生件数 (2020年～2024年)

被害状況		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	総計
人的被害	死亡	1	0	1	1	0	3
	重傷	1	0	0	0	0	1
	軽傷	1	0	2	0	1	4
物的被害	拡大被害※ ²	7	2	8	4	7	28
	製品破損	3	4	2	1	1	11
総計		13	6	13	6	9	47

(2) 製品別の事故発生件数

暖房器具の製品別の事故発生件数を表2に示します。

表2 製品別の事故発生件数 (2020年～2024年)

製品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	総計
石油ストーブ	9	5	8	5	5	32
石油ファンヒーター	1	0	0	0	2	3
電気ストーブ	2	0	3	1	0	6
電気ファンヒーター	1	1	1	0	2	5
電気カーペット	0	0	1	0	0	1
総計	13	6	13	6	9	47

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

(※2) 製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

2. 暖房器具の事故事例

■石油ストーブ

事故発生年月 2022 年 11 月（北海道、50 歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

建物を全焼する火災が発生した。現場に当該製品があった。

【事故の原因】

使用者が当該製品の温風吹出口直近に可燃物を置いたまま当該製品を運転させたことで、温風吹出口からの温風により可燃物が過熱されて発火し、火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「カーテン、布団、毛布など燃えやすいもののそばでは使用しない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

■石油ファンヒーター

事故発生年月 2020 年 2 月（北海道、80 歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

使用中の石油ファンヒーター付近から出火して住宅を全焼し、1 人が軽傷を負った。

【事故の原因】

カートリッジタンクの給油口口金のねじ山の一部につぶれた部分がみられたこと並びに使用者が給油後、カートリッジタンクを当該製品本体に戻す際に灯油をこぼしていたことから、口金がずれて締め付けられていたため、灯油がこぼれて高温状態の燃焼部等にかかり、火災に至ったものと推定される。

■電気ストーブ

事故発生年月 2022 年 2 月（北海道、80 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブ付近から出火し、周囲を焼損した。

【事故の原因】

本体側の電源コードプロテクター付近に過度な応力が繰り返し加わったため、芯線が半断線し、短絡・スパークが生じたものと推定される。

なお、取扱説明書には、「電源コードをいたんだまま使うと、火災などの原因となる。コードを折り曲げたりするような使い方はしない。」旨、記載されている。

■電気ファンヒーター

事故発生年月 2021 年 11 月（北海道、30 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

電気ファンヒーターを使用中、電源プラグと延長コードが焦げた。

【事故の原因】

電源プラグ刃の芯線接続部でカシメ不良があったため、接触不良が生じて異常発熱し、発熱・焼損したものと推定される。

なお、輸入事業者は、2022 年 1 月 28 日付けホームページに社告を掲載し、対象商品の回収を実施している。

3. 暖房器具の点検ポイント

■ “石油” 暖房器具の4つの点検ポイント

- ☑ ほこりがたまっていれば取り除く。
- ☑ 対震自動消火装置が正しく作動するか確認する。
- ☑ 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
- ☑ カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

■ “電気” 暖房器具の4つの点検ポイント

- ☑ 電源コードや電源プラグが変形・破損していないか、
コンセントがたこ足配線になっていないかを確認する。
- ☑ 本体に変色や変形等の異常がないかを確認する。
- ☑ 転倒時オフ機能が正常に作動するか確認する。
- ☑ 製品がリコール対象製品ではないかを確認する。

【+1】暖房器具使用中の注意ポイント

- ☑ 暖房器具と壁や可燃物との距離が十分に確保できているかを確認する（洗濯物は乾かさない）。

4. 製品事故の実験映像について

製品事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者: 神山、佐藤

電 話: 011-709-2324